

根

を見る



クサヨシの根

アイヌ語名は()内に の写真は毒草

食べられる根



オノノヤガラ(ウニンテブ)の根。アイヌのサツマイモともいわれる。痛み止めなどの薬効がある。葉を持たず、腐った植物の死体から栄養をとる。

植物はもちろん地上部分だけではありません。根を生やし、土から水や養分を得ることで生きているのです。また地下部分は、イモや球根のように、栄養分をためる役割ももっています。

山菜は地上部を採りますが、アイヌの人たちにとっては、それ以上に地下部分が重要でありました。

特にオオウバユリ(の根=トゥレブ)は、ギョウジャニンニク(キト)と並んで重要な食料源でした。

また、オノノヤガラ(ウニンテブ)は松浦武四郎の「石狩日誌」において、「アイヌのサツマイモ」として紹介されているといえます。



オオウバユリの花



オオウバユリの根(トゥレブ)

毒草と区別するために

山菜を採る際最も注意がいたるのは毒草と間違えないことです。若芽のころを採取するので、特に見分けがつかないのです。

そんなとき、少し土を掘って根を見ると区別が付く場合があります。

ただし、栄養をためる場所は同時に毒を最もためる場所でもあります。コウライテンナンショウの根はかなり強い毒を持っていて、アイヌの人たちは毒部分を取り除いて食用にしていたといえます。

また、トリカブトは全体に毒がありますが、毒を取る場合は根から取ったようです。

手に傷があれば毒が入ることもあります。さわる時は十分に注意してください。



オオアマドコロ



毒草のホウチャクソウ

参考文献

「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995

「北海道生活文庫 第2巻 北海道の自然と暮らし」関秀志・矢島睿・古原敏弘・出利葉浩司 北海道新聞社 1997

「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001

「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989